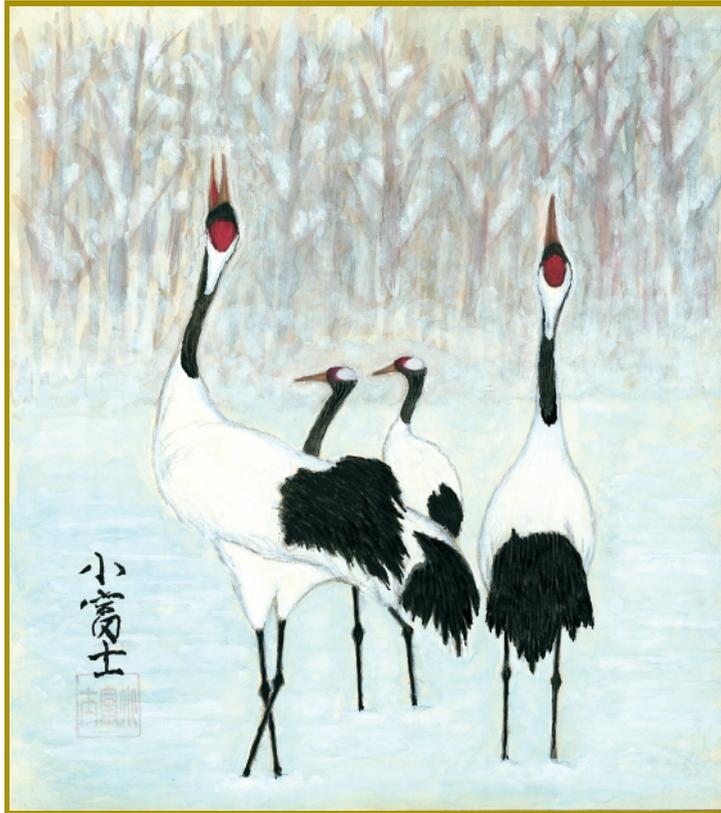


新 生

丹頂の 冬を生き抜く 声きびし

小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十三年十二月 十日印刷
平成二十三年十二月 二十日発行

新生第六十三巻 第四号

新 生

平成二十三年十二月 十日印刷
平成二十三年十二月 二十日発行

第六十三巻 第四号

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地		
土地面積	351,291㎡		
建物延面積	25,280㎡		
開園	昭和14年10月27日		
医療法承認病床	266床		
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科		
現在入所者数	男54名	女62名	計116名
職員定員数	153名 (平成23年4月1日現在)		
園長	医学博士	横田	隆

東北新生園交通案内図





大泉逸郎歌謡ショー
平成23年10月24日
新生会館にて



演歌歌手の
大泉逸郎さんには、
沢山の励ましと
沢山の歌をプレゼント
して頂き、入所者一同
楽しいひと時を過ごしました



園内日誌

平成二十三年 七月〜九月

《七月》

- 五日 登米市長来園
- 二十日 睦橋渡初め
- 二十三日 第十三回花火大会

《八月》

- 一日 渡部東村山市長来園
- 十六日 お盆行事(納涼抽選会)
- 二十三日〜二十四日 天理大学生研修会
- 三十一日 秋田県慰問

《九月》

- 七日 楓会発会六十五周年東北新生園物故者慰霊祭
- 十六日 敬老の集い(佐藤寛一氏民謡ショー他)
- 二十九日 第十三回寛仁親王妃杯女子コスモスゲートボール大会
- 三十日 清香亭除幕式

【謝寄贈図書館】

平成二十三年七月〜九月(敬称略)

- | | | | | | | | | |
|-------|-------|----------|-------|-------|-------|-------|-------|----------|
| 愛生園 | 多磨園 | 多字愛生園 | 菊池野 | 青楓 | 甲田の裾 | 高原 | 始良野 | 真宗 |
| 岡山県 | 東京都 | 岡山県 | 熊本県 | 岡山県 | 香川県 | 群馬県 | 鹿児島県 | 京都府 |
| 長島愛生園 | 多磨全生園 | 長島愛生園盲人会 | 菊池恵楓園 | 邑久光明園 | 大島青松園 | 栗生楽泉園 | 星塚敬愛園 | 真宗大谷派宗務所 |

平成23年12月10日 印刷
平成23年12月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)
編 集 刷 楓 会 文 化 部
印 刷 川 内 印 刷 株 式 会 社

〒989-4601
宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一
東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十二巻第四号……………目次

表紙…「丹頂」……………桃生 小富士

転倒予防について……………機能訓練室一般作業療法士…本間 俊次…(2)

ゲートボール大会参戦……………総看護師長…青山 満理子…(5)

随筆「娘と老母」……………今野 きよし…(8)

|| 新生文芸 ||

詩……………選 者…佐々木 洋一…(12)

短歌……………選 者…長田 雅道…(13)

俳句……………選 者…山田 桃晃…(16)

川柳……………選 者…栗石 隆子…(18)

随筆「長持唄」……………今野 きよし…(20)

自己紹介……………看護師…千葉 久美子…(23)

自己紹介……………看護師…阿部 久美…(24)

園内日誌 謝寄贈図書

転倒予防について

機能訓練室一般作業療法主任 本間 俊次

今回は加齢によりリスクが高まる転倒事故の予防について書かせていただきます。転倒は高齢者に限らず、だれにでも、いつでも、どこでも起こりうるものですが、高齢者ほど転倒の数、転倒による外傷、骨折の重傷度は増していきます。転倒時に見られる怪我は頭部外傷、手首の骨折、背骨の骨折及び大腿骨頸部骨折などです。高齢者の大腿骨頸部骨折は、治療が長引けば寝たきりになり、さらには認知症が進んでしまうケースが多く見られます。それではなぜ高齢者は転びやすいの

でしょうか。人は年をとるにつれて、筋力、反射、バランス能力、視聴覚機能などの身体能力が重複して低下するため、転倒しやすくなります。また、病気が影響することもよくあります。例えば心臓の病気などで、血圧が急に低下したり、不整脈が起こることが原因で転倒することがあります。白内障や緑内障などで物が見えにくくなった場合も転倒しやすくなります。睡眠薬や降圧剤、抗不安薬、糖尿病治療薬など薬の影響でふらついて転倒することもあります。高齢者の転倒は屋内で

よく起ります。筋力が低下すると、「うつむき加減」「ひざが曲がっている」「スリ足」など、転びやすい歩き方になりがちで、これまでつまづくことのなかった、わずかな段差でもつまずきやすくなります。ところが本人は、そのことに気づいていないことがよくあります。住み慣れた居室にも転倒の危険があることを理解し、住環境を見直して、できる範囲で改善しましょう。例えば、読みかけの新聞や雑誌、脱いだ衣類などが放置されていると、転倒の原因になるので、片付けるようにしましょう。また手すりを付けたり、段差を解消することも大切です。転倒は自然に発生するものではありません。転倒には原因があり、対策をたてれば防ぐことが可能です。今回、転倒を予防するための注意点をいろはカルタ風にまとめてみました。この中の内容を一つでも二つでも実践していただき、転倒予防に役立てていただけたらと思います。

転倒予防のいろはカルタ

い 急がず、慌てずゆつくりと
ろ 老化は急に止められない
は 履き物は自分の足に合ったものに
に 二度あることは三度ある
念には念の転倒予防。
ほ ホントに怖い転倒骨折、寝たきり、痴呆の原因に
へ 部屋の中、つまづく原因探してみよう
と トイレまで短い距離でも危険あり
ち 散らかった部屋に潜む事故原因
り 利用して筋力アップ、レク（レクリエーション）や訓練
ぬ ぬかりなし、転ぶ前に手すり付ける
る 類似する原因がある転倒事故
を 老いては介助が必要なことも
わ 和式の生活、洋式に変える時期も念頭に
か 介助の利用、転ばぬための良き作戦

よく見えない、視力の衰えつまり原因
体調の日々の変化に要注意
レク(レクリエーション)で楽しく体力作り
その段差いずれつまり原因に
強い骨作るためのカルシウム
寝たきりにならぬための転倒予防
泣かぬよういつも転ばぬ心がけ
楽に動ける体を作ろう 日々の運動1、2、3
無理のきかない年齢自覚
運動の筋力、バランス維持しよう
井の中の蛙運動不足、部屋を出てレクや
訓練楽しもう
残った人生転ばず元気
起きてすぐ踏み出す一歩気を付けて
めまい、ふらつき事故のもと
薬の作用理解して注意事項を厳守する
夜間のトイレ無理せずコール
まだ大丈夫。思っているのは自分だけ
決して転ばぬ自覚と対策

ふ 普段から体動かし軽い足取り
こ 転ばぬ先の手すりや杖
え 遠慮せずコールを押して安全第一
て 転倒予防は寝たきり予防
あ 「あわてない、あわてない」一休さんの
言うとおり
さ 散歩で維持する歩行能力
き 気づかぬうちに転倒予備軍仲間入り
ゆ 床の上コードや衣服を整理して通る所は
すつきりと
め 目覚めてすぐの一歩が危険
み みんなで目指そう転ばず百歳
し 深夜でも遠慮はならないトイレの介助
ゑ ゑびす顔、笑顔で暮らす転ばぬ工夫
ひ 暇を見つけてこまめな運動
も もし転んだら怪我や骨折すぐチェック
せ 整理整頓床の上、転ばぬための良い習慣
す スリ足は小さな段差でつまり原因
ん！これで転ばぬ対策万全なり

ゲートボール大会参戦

総看護師長 青山 満理子

去る九月二十九日、第十三回寛仁親王妃杯
女子コスモスゲートボール大会が開催されま
した。天高く、女性達のはつらつとした笑い
声が絶えませんでした。昨年は大会運営委員
として観戦に終始しましたが、見ているうち
に、自分もプレイを試してみたいなと考え、今
年の一月、賀詞交歓会で思わず口にしたのが、
「今年は看護師長会でコスモスゲートボール
大会に参加します」という言葉でした。ルー
ルもわからず、触ったこともなく、何とも無
謀でありました。しかし、一度口にしたので

すから実行しなければ女が廃る！
大会に参戦するとは、看護師長達も本気に
していなかったかも知れません。一月に目標
を述べ、三月は別れの月、四月に新しい職員
を迎え、六月は高松宮記念杯近隣親善ゲー
トボール大会が開催されました。さて、九月の
試合準備をしなければと、我ながら少し焦り
を感じました。まず第一に、インターネット
で『ゲートボールとは』から学習です。久保
自治会長に相談し、優しく、根気強く教えて
くれる指導者を紹介していただき、用具の準

備です。七月から週二回の部活動を開始し、八月は月に三〜四回に止まりました。いよいよ九月に入って、監督も私たちの実力に呆れてばかりもいられません。週二回の部活再開です。ルールは相変わらず、ちんぷんかんぷんで、監督に指示されるままひたすら打つのみ。もともと、指示される通りに打てないのが私たちでした。

チームの名前は『新生フラガール』です。名前の由来は、昨年師長会でフラダンスを披露したからと言う単純なものです。今思えば、福島の本場フラガールに失礼なことをしてしまいました。次に、形から入ろうとコスチュームの準備ですが、イメージはすべて私が担当しました。実力がなくとも上手く見えそうな目立つ衣装を考え、蛍光色のTシャツ・黒の七分パンツ・黒のキャップにコスモスのコサージュ添えて決定。似合うかどうか問題ではなく、自信がありそうに見えるコス

チュームを選択しましたが、これが以外に好評でした。

大会当日、朝から何とも良い天気。早めに出動し、軽く練習でもしましよと思いい、グラウンドへ向かうと、早々に集まる選手達。松丘保養園の選手達は、前泊で体調を調整しての参加です。どのチームの方も、初参戦の私たちを温かく、笑顔で迎えてくれたことに感謝です。四試合戦い、目標は一勝でしたが、重要などころで大失敗するなど、勝てそうな試合も取りこぼし、何とも情けない結果となりました。入所者の方も今では参戦していませんが、少し前まで選手として活躍していた知恵を伝授してくれました。また、リラックスするよう声をかけてくれました。職員も、どんな感じで看護師長達が試合しているのか、興味と不安を胸に、眺めに来て応援してくれました。敵であるはずの相手チームも、試合の合間に優しく声をかけてくれ、楽しい

会話が成立しました。第三者として外側にいでは、決して味わうことのできなかつた仲間意識が生まれました。

試合結果はともかく、大会に参加したことで、充実感・達成感が得られました。参加を心より応援してくださいました久保会長、大

丈夫なのかと不安であったらう横田園長や職員の皆様の応援に感謝致します。最後に、私の勝手なひらめきに快くそして根気強く付き合ってくれた佐藤監督、看護師長の仲間達に、『ありがとう』の言葉を贈ります。

新生フラガール



後列左から
木村副看護師長、筆者、佐藤看護師長、佐々木看護師長
前列左から篠崎看護師長、佐藤監督、佐賀看護師長



— 激戦のようす —



娘と老母

今野 きよし

A 息子 B 母

A 母ちゃんはなんぼになったの？
 B おれか？七十五になったな。
 A はあ、そんなになったのか。
 B そうだ、いつのまにか。
 A そんなに年令とったか。
 B そうだなあ。
 A 母ちゃん、おれ何すればええ？
 B 何すればええったって親孝行だべさ。
 A 誰さ、親孝行するの？
 B おれだべさ、他に誰か居たのか？

A 母ちゃんさ親孝行か。
 B なしてや、ピンと来ないのか？
 A なんだかピンと来ない。
 B 一緒に暮らしてるもの。
 A それはそうだな。
 B なんだかおれ、この頃気抜けたような気がする。
 A なしてや、気抜けたなんてはっから早いな。
 B あのね、子供達大きくなって、手がかからなくなったら、気抜けしてしまつた。
 A おれだつて気抜けたことあつたもの。
 B いつごろなの？そうなつたの？

A B 子供達大きくなって独立した時だつた。
 B そうか、何にも心配することないんだね。
 A 母ちゃんの話聞いてほつとした。
 B 五十にもなつて、情けないこと。
 A そうだね、そう言われると。
 B そんなに何も無いのなら、おれの用足してける。
 A 何やるの？言つて聞かせて。
 B M町のおばさんの墓参り二ヶ所、それから下町のおばさんの墓参り、この三ヶ所頼むから。
 A 三ヶ所も一回に廻るの？
 B 何も一回に行かなくなつてええべや。
 A それもそうだね。
 B 一ヶ所ずつ行く事にするからね。
 A 急に思い出した。年齢のせいかな。
 B おら、そこまで考えていないもの。
 A 年令取るとな、余計な事考えるな。
 B ずんぐりばんこだな。

A B そうでなければならぬと思う。
 B ほだな、人は年令取つていろいろ考えるんだものな。
 A それから何か、思いだしたことあるの。
 B 今のところ、それくらいだな。
 A 母ちゃん、おれ小さい時のこと教えて。
 B あんだは、子供の時、男の子みたいに男の子のような遊びごとばかりやつていたな。
 A おれ、そんなことあつたのか。
 B 男の子みたいなことして遊んでいた。
 A そう言えば、そんな気がする。
 B さつぱり、女の子らしところなかつた。
 A ほんでも、学校さ入つてから女の子と遊んだよ。
 B ほんだつたな。
 A 同級生の友達連れてきたな。
 B 同級生の友達遊びにきたもの。
 A 隣りの家のいとも来たつたな。

A 小学校六年生のとき、そして隣りの家さ
泊って行ったけね。

B そうだ、そんなこともあった。

A おれ、女だもの女子らしいと思うべ？
母ちゃん。

B そうだな。子供も育てたし。

A おら、ちゃんと女の子らしいことしてい
るもの。

B おれ孫たち大きくなって、なんだか安心
したような、寂しいような気がしてきた
な。

A いかべつちゃ、孫大きくなったんだもの。
喜んだらええのに。

B ほだつて子供のときみたいに馴れて来な
いもの。

A はあ、そうか子供たちも離れたのか。
そう言うの何て言うの？

B 子離れつて言うのかな。

A “子離れ”、“孫離れ”つて言うのか

B 人は何ぼになつても、大人になれないん
だな。

A 母ちゃんがこれからつて言うならば、お
れこれからだね。

B ほだべつちゃ。何語っているのや。
そう言われて、はつとした。

A ほんでも今日誰も居ないから本当の事語
れていがつたな。

B そう思うの？母ちゃんもそう思う。

A なんぼ年令取つても、あまり本当の事
語つていられないものなあ。

B 今日ええね、本音が出たね。

A そろそろ皆んな帰つて来るべな。
来る頃だね。

B 夕飯の支度するか。

A そして三本指ついて「おかえりなさい」つ
てやるの。

B それええな。それ誰やるのや。
母ちゃんだもの手本見せて。

B どごにそんなことしてたら、皆んなびつ
くりして、腰抜かすべや、誰や。

A ああ、来た来た。車の音して来た。
今日はこれでおしまえ。

B ああ母ちゃんありがとう。面白かった。
おらもだ。面白かった、えがったなあ。

— 平成二十三年一月三十日記 —



不自由者バス旅行（定義山方面）
—平成23年10月25日—

詩

佐々木 洋 一選

◇ 入 選 ◇

《うろこ雲》

今 野 きよし

梅雨明けて
間もなき空に
うろこ雲
空にびっしり
敷きつめて
風に吹かれて

うすくなり
ゆっくり
東の空へ
空の一点
見つめれば
心落ちつく
もののあり
雲はやっぱり
物言わぬ
心の奥に
迫り来る
自然の力
ひしひしと
世の煩いを
流して呉れる
雲と一緒に
過したい
この世にある
有る限り

避けて通れぬ
運命あり

雲に魅せられ
親しき覚ゆ
平安を
与えて貰い
ありがたい

短 歌

長 田 雅 道 選

◇ 入 選 ◇

【選 評】

「うろこ雲」

雲への思いは誰でも持つものなのかも知れ
ません。山村暮鳥の雲や智恵子の故郷、安達
太郎の雲を思いました。また、運命の中に浮
かぶ平安という雲に、とても安らぎを感じる
作品です。

屋根続きの寮に住み居て会うことの語
らうことの少なくなりぬ

佐 藤 つや子

【選 評】

会おうと思えばすぐ会えるは
ずなのに、ごく近くの部屋に住
む友に会うことも稀になってい
る。寂しい思いが淡々と詠まれ
ている味わい深い歌である。

今野 きよし
七夕の飾りを下げし食堂に通う足どり
軽々として

なつてならない。故郷を離れた
高齢の方でなければ詠めない良
い歌である。

【選 評】

人にはちよつとしたことで暗
い気持にも明るい気持にもなる
ものだ。七夕飾りがあるだけで、
食堂に通う足どりが軽くなる。
生活のひとこまがいきいきと詠
まれている。

◇ 佳 作 ◇

佐藤 つや子
橋板を縦に背負いて運びたる橋架け替
えの工事に参加

千代田 秀夫
老いぬれば過ぎたる歲月惚ぼるる故郷
人の恙無きかと

ひらがなにむつみ橋ときざみたる橋の
欄干今も目にあり

【選 評】

年のせいであろうか、過ぎ
去つた月日のことがいろいろ思
われてならない。なかでも故郷
の人が元気でいるかどうか気に

判断のつかぬは耳のせいにしてシャ
ャーと居る我に気づきぬ
転びしがわがわいせしか世話うけし友
あっけなく逝きてしまひぬ

十月の陽を浴びながら押されゆく外氣
にふるるはこの時のみなる

千代田 秀夫
幾房の白きブドウを籠に盛り今年も秋
の香り給わる

今野 きよし

補聴器をかけて話を聞きたくも耳にな
じまずいろいろ募る

遙けくも鳴く郭公の声聞けばこの世の
旅の卒寿侘しき

蒸し暑き日差しをさけて長廊下行きつ
戻りつ涼を求めて

予期したることと知りつつ訃報聞く秋
の一日のうつうつとして

真夏日の強き日差しを背に受けてとぼ
とぼ歩む吾が影愛し

月の出を持ちて供うることもなく古き
習わし遠き思い出

吾が影の少なく見ゆるをつくづく眺
めて歩み治療に通う

梅雨明けの午後の日差しにほとほと
夜具を叩ける音のふくらみ

土砂降りの雷雨の後の一夜明け霧のか
かりて外燈浮かぶ

俳句

山田桃晃選

秋風や誰がうたうか故里のうた
斎藤照雄

【選評】

普段は意識の外にある故里。今回の大震災によつて否応なしに故郷の歌に意識させられたのだ。秋風に乗つて誰彼を思う故里の歌か。

◇入選◇

耳元を微風の掠めいわし雲
今野きよし

名月やガレキ置場の明と陰
小野寺静男

【選評】

俳句ならず何事も、出来あがつたところでナルホドと思わせて良しとするわけだが、耳元を掠める風に呻吟があり、その苦勞の過程が楽しみである作者の詩心、いわし雲の様に。

【選評】

淡々とした写生のようだが、瓦礫の置場には被災者の嘆き、悲しみの深さを明と陰、そして月光の無言の苦境を語りかけている。

◇佳作◇

千代田秀夫
風鈴のかそけき音に風通る
虫の音の中を白杖帰宅せり
夕立や土の匂いを置いてゆき
被災者もみんなみん蟬に励まされ
影までも吐息をついて残暑かな

ふる里に似た畦径を飛ぶ蝗

今野きよし

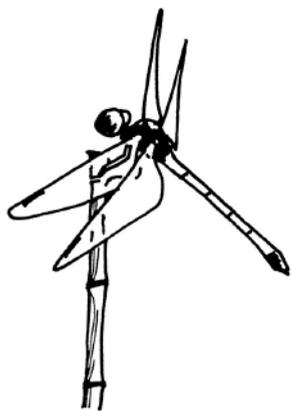
恙無き平和な山に毒茸
喘ぎ来る老婆の背に赤とんぼ
整然と刈らし芝生ちちろ鳴く
三笠妃の御手植えの札百日紅

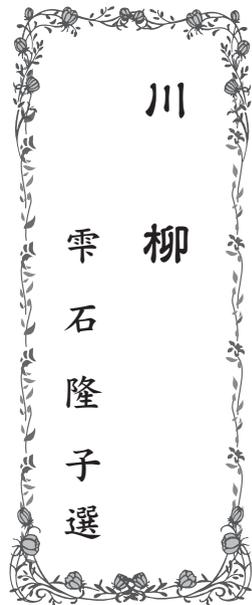
小野寺静男

玄関に主待ちたる鈴虫よ
君想い鳥になろうか天高し
早紅葉昔歩きし遊歩道
神無月八幡様の赤鳥居

斎藤照雄

どっさりと夜来の風に落し栗
バックリとあけびが割れて試歩日和
小春日についさそわわれて試歩の径





川柳

雫石隆子選

ちっぽけな夢が闘病支えてた
齋藤 照雄

【選評】

厳しい闘病生活を乗り越えるのは相当の難儀があつたと思うが、小さな夢が一つあつたからこそ励みになった。「ちっぽけな夢」の措辞が作品をリアルにし、説得力となつて胸に迫ってくる。

◇ 入 選 ◇

秋刀魚喰うがつつ海を貪りぬ
桃生 小富士

【選評】

大震災は南三陸沿岸に大きな爪痕を残した。被災した港に水揚げされた秋刀魚は、特別な感慨と共にたべたと思う。中七の「がつつ」に句の味わいと津波に呑み込まれた諸々への思いが籠もっている。

土壇場に降りて来そうな蜘蛛の糸
小野寺 静 男

【選評】

人生には何度か進退窮まる場面がある。その時にすーっと救いの糸が降ろされるだろう、という期待が作品になった。いざと言うときの救いの願いは万人

の願いでもあろう。

◇ 佳 作 ◇

齋藤 照雄

酒の量年を重ねる度にへり
闘病にめげず髭そり髪を切り
いい天気なのに心はくもりがち

桃生 小富士

大寒小寒神経痛に悩まされ
復興の論点ずれていませんか
震災の出口が見えぬ放射線

小野寺 静 男

トコロテンみたいな人事やめてくれ
この景色蜃気楼だといひんだが
人生はもどれぬ道と覚悟する

桜山 南 仙

美しい花風向きを知り尽くす
握った手冷たくなって西東
うなりつつ除夜の鐘より逃げる悪

千代田 秀 夫

昼食をはさめば意見丸くなり
蛇を見た昨日の場所の忍び足
あの川の水が飲みたや天の川

今野 きよし

見上げてもお上にあり秋の空
水引きの首をかして聞いており
雑談が多く会議が進まない

長持唄

今野 きよし

「きよしさん、今度ね、十二月八日のお楽しみ会（忘年会）に長持唄の劇をやることになったの。その時、長持唄を唄って下さいね。」と頼まれた。

長持唄といえば私が小学校五、六年生のころの記憶では御祝儀（婚礼）があると隣近所の女の人たちが、その話で持ち切りであった。

秋から冬にかけて、あっちでもこっちでもというように御祝儀があった。どちらかというと年末の方が多かった。又一つでも年の若いうちにというのが理由で、秋仕舞が済んでからということもあった。

御祝儀がいついつに決まったと話を聞くと

りりとした鉢巻き姿で、リヤカーを引いて帰って来た。道路に嫁見の人たちが大勢出て通り過ぎることができなくて、長持担ぎの人が「ハー今日はなあー」と唄い出し、もう一つと声がかかり、仕方なく二番目も唄って「ああ、遅くなる」と急いで行った。

ハイヤーから降りたお嫁さんを見ながら、ひそひそ話をして長持唄を聞いていた。

私たちは歌を聞くことも、嫁さんを見るでもなく、只はしゃぎ廻っていた。「こら、せつない。」と叱られたこともあった。それでも私たちは何を怒っているのか見当もつかなかった。それでも、長持唄の歌詞と節は耳の底に残っているから不思議な気がしてならない。子供のときはいちいち耳を澄まして聞かなくとも体で覚えていたと思われる。

結婚式には夜になってから行われ、嫁さんは台所から入り、婚家のご両親をはじめ皆さんと挨拶を交わしてから席についた。外からは見えないので早く始めれば良いのにと待つ

大人も子供もその日が来るのを楽しみにして待ったものだ。

学校の授業が終わると走って帰って、その時間が待ちきれなくて、走り回っていた。

午後一時ごろになると嫁さんを迎える人達が出かけて行った。すぐ帰って来るわけもないのに公会堂の前や十字路に出て待った。

午後三時か四時頃になつて嫁さんはハイヤーで目の前をさあつと通り過ぎて行くこともあった。又、道を塞いで絶対通さない人も居て、嫁さんを車から降ろし、歩かせて見せて居た。

そのうちに長持担ぎの人が赤い手拭いをき

ていた。

床の間を背にして二人は座った。両脇に仲人が座り、仲人は天下様と呼ばれていた。

式は謡を唄って進められ、司会とお祝を述べる役も兼ねていたと記憶している。三三九度の盃に酒を注いでいたのが十歳位の男のであった。男の子と女の子の二人でやるらしいが、私が見たのは男の子一人であった。三十分位で結婚式は終わり、式が終わると宴会が始まり賑やかになった。

Tさんから頼まれた長持唄のことを気にしながら、四、五日が過ぎたある日、寮のカラオケの日に唄ってみた。声がうわつき、とても唄えなかった。夕方六時過ぎ、治療棟の渡り廊下の手すりにすがり唄ってみた。声の響きも良く、気持ちの余裕もできて、早くその日が来ないかと楽しみに唄の練習を続けた。

十二月八日待ちに待ったお楽しみ会の日を迎える事が出来た。Tさんの作演出による結婚式である。式場に向かう行列が出来た。長

持唄に合わせて提灯を持った二人を先頭に長持担ぎの方、花嫁花嫁その御両親と会場に入ってきた。

長持唄の三番を唄い終わり、席に着いた。結婚式場に入り、正装の巫女によって三三九度の固めの盃が交わされた。

巫女の役は、介護員のIさん。なかなか堂に入った姿で大きな盃になみなみ注いだ花嫁は、ぐいっと反り返りながら飲み干した。花嫁は慎ましくちよっぴりと舐めるようにして頂いた。菅原・白鳥御両家の結婚式は目出度く進められ、披露宴に入り、友人親戚のお祝の唄が唄われ宴を盛り上げた。

お二人の甥御さんと姪御さんから可愛い声でお祝の言葉が述べられた。

新郎新婦からは両親に御礼の言葉が述べられ、花嫁からは四十二年間育てて頂きまして、ありがとうございますと神妙な言葉に心打たれた。

最後に新郎のお父さんから二人に今後につ

いてアドバイスをされ、出席者の皆様方にも御礼の言葉を切々と述べられ、結婚式は無事に終了した。

退場はお立ち酒の唄に合わせてそろりそろりと退場する。行列に加わった方も見ている方にも満足した様子であった。

それにしても、退場する時はどこか淋しい感じがした。劇の上とは言い乍、一度盛り上がったものが崩れるような気がしてならない。

長持唄は張りつめて唄ったが、お立ち酒はどこか淋しいものを感じた。

あの二人は、これから幸せな人生が始まるのだと思い、祝福してやらなければならぬのが劇の上とは言え、本物の気持ちにさせられた。

二日経ち、三日経ってTさんから頼まれた長持唄を唄って良かったと満足している。しかし、ちよつとどこかで物足りないところもあるけれども、終って良かったとあの雰囲気之余韻に浸っている…。

自己紹介

看護師 千葉 久美子

昨年十二月より看護師として東北新生園にお世話になっております千葉久美子と申します。

私は、岩手県一関市の看護学校卒業後、古川市立（現在 大崎市民）病院に就職して九年程働いておりました。その九年間に結婚、出産し育児のため退職し家庭に入りました。三人の息子のうち長男と三男が喘息で夜中に急に咳き込み吐いたりするのが毎日で、食事中も咳き込むとすぐに吐いたり、ウエットティッシュとビニール袋は常に必需品でした。現在も毎日予防の薬を飲みますが、以前に比べると発作や吐く事も回数的には少なくなり、三男も四才になり、ある程度、手が

かからなくなってきた為、再就職しようと思っていたところ、縁あって、こちらでお世話になることになりました。自宅は築館ですので、出勤時間も前の所より半分の時間で済みます。

三年程看護職を離れ不安な気持ちでの再就職でしたが、入所者様やスタッフの皆様を支えられながら日々を過ごしております。

高校は女子高でした。剣道部で部長をしていました。部員が少ないうえ、決して強くなかったチームでしたが、先輩や後輩達と今でも仲良く連絡を取り合い、又その時お世話になった先生やコーチとも長く交流を持たせて頂いています。今の体格から考えるとスポーツに縁が遠いように見えますが、他にも水泳やマラソン、ソフトボールなどやっています。勉強の方はあまり好きではありませんでしたが、答えがはっきりしている数学は好きでした。答えが二通りにも三通りにも考えられる教科は苦手です、今の私の生活にも出てい

るように感じられます。「起承転結」が私の場合「起結」の二文字になってしまいました。一番私生活で出ているなあと感じるのは、子供を怒る時です。子供達は私に怒られると効き目があるようですが、それはつかの間。また同じ事を繰り返します。今では反省し、かみ砕いて話をするように心掛けています。内心は自分の説明にイライラしています。でも、順序を立てて話をする子供達は分かってくれるようになりました。

話上手になりたいのが今の自分の目標です。相手の気分を害さず、又理解してもらい、共感したいのです。結果として職場や私生活に活かされれば幸いです。

こんな私ですが、これからもよろしくお願い致します。

きたいと思ひ、再び学生に戻り、石巻市の准看護学校へ入学しました。久々の学校や年の離れた同級生はとも新鮮で、あつという間の二年間でした。その後、気仙沼市の看護学校へ進み、卒業後は、宮城県と福島県の県境にあります山元町の宮城病院で働いておりましたが、出産を機に新生園にお世話になることになりました。

六月に復帰した時は、診療体制が変わっていて、センターにいらつしやる入所者さんとお会いする機会が減ってしまいました。眼科や耳鼻科での診療時や、治療棟を通りかかった際には、気軽に声をかけて頂いたり、分らない事を丁寧に教えていただき、皆さんに助けていた、さながら、日々過ごしてあります。

先日、新しい東屋「清香亭」で行われた芋煮会では、おいしい芋煮をいただきながら、皆さんと楽しいひとときを過ごすことができました。また、広大な敷地と自然に囲まれた新生園を清香亭から見渡すことができ、すて

自己紹介

看護師 阿部 久美

六月一日より治療棟外科で勤務しております阿部久美です。よろしく申し上げます。

一昨年の十月から新生園にお世話になっておりましたが、産後休暇や育児休暇をいただきまして、約一年振りの勤務です。復帰した際には、皆様から暖かいお言葉を頂きまして大変うれしく、励みになりました。ありがとうございます。

自己紹介が遅くなってしまうのですが、私の出身は登米市豊里町で、新生園までは、車で三十分位の所から通勤しています。

高校卒業後、岩手県の短大を出て、しばらく障害者施設、介護老人保健施設、デイサービスで働いておりましたが、看護師として働

きな場所だと思いました。

皆さんにご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、先輩方のご指導を頂きながら、少しずつ成長していけるよう努力します。で、これからもよろしく申し上げます。



園内風景



パネル展・屋台まつり
のようす
(平成23年11月8～9日)



▲宮城ハンセン協会に
よるギター演奏



◀職人さんが会場で握
ってくれるお寿司は
格別です